

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.19

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

国際原子力機関(IAEA)による安全性の確認②

ALPS処理水の海洋放出に関する安全性検証(2回目)の報告書が公表されました

IAEAが昨年11月に実施したALPS処理水の2回目の安全性検証の報告書が今月、公表されました。報告書では、前回の指摘を踏まえて、当社の計画改訂に大きな進展があったと示されています。当社は、今後もIAEAの検証を通じて、国際的な安全基準に照らした確認を継続し、安全確保に万全を期してまいります。

IAEAによるALPS処理水の安全性に関する報告書の概要

【調査団メンバー】

原子力分野の専門機関であるIAEAの職員および国際専門家*1で構成されるIAEAタスクフォース

※1.出身国:米国、英国、フランス、中国、ロシア、韓国、アルゼンチン、カナダ、オーストラリア、ベトナム、マーシャル諸島



←福島第一原子力発電所の視察の様子



視察の動画や写真はここからご覧いただけます。

【主なポイント】

▶設備の安全性

⇒起こりうる事故シナリオおよび結果に関する説明を追記するなど、前回の指摘が適切に対応されていることを確認した

▶放射線環境影響評価

⇒東京電力は放射線環境影響評価報告書を改訂し、測定・評価対象核種の見直し*2を除き、評価手法やデータの明確な説明など前回の指摘にすべて対応した

※2.現在、補正計画を原子力規制委員会に申請中

▶環境モニタリング

⇒東京電力の環境モニタリング計画は包括的であることに同意する

皆さまからの声におこたえします

Q 今後、IAEAによる検証はどのように行われるのですか？

A 今回は、国際的な安全基準に照らして海洋放出の安全性を検証いただきました。今後、「規制のしくみ」の検証や「独立したデータ分析」が続けられ、これらをまとめた包括的な報告書が海洋放出の開始前に公表される予定です。

IAEA (International Atomic Energy Agency)

・国際連合の後援のもと、1957年に自治機関として設立。原子力に関する国を越えた協力を進めている国際機関

・査察官を世界各国の現場に派遣して原子力が平和利用されているかの検証や原子力の安全に関する国際的な基準の設定、原子力をこれから導入しようとする国などに専門知識を提供するなどの取組みを実施



IAEA

International Atomic Energy Agency

[ALPS処理水に関する特設ページ]

IAEA公式
日本語ページ



グロッシェ事務局長による視察(2022年5月)



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶[処理水ポータルサイト]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>



1回目の安全性検証の概要はこちらをご覧ください
▶[IAEAの安全性検証]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/images/iaea-j.html>



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶[皆さまのご意見をお聞かせください]
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22